鎌高新聞

発行　神奈川県立鎌倉高等学校　校長室

令和４年８月 31 日　　第 17 号

日坂同窓生シリーズ第４回

鎌倉市立深沢中学校

校長　河合　克也様

鎌高生の皆さん、こんにちは。私は昭和 62 年３月に鎌倉高校を卒業した河合克也と申します。大学卒業後の職歴ですが、英語の教員として鎌倉市内の中学校２校に勤務しました。その後鎌倉市教育委員会、鎌倉市内の小学校、神奈川県教育委員会に勤務し、鎌倉市立深沢中学校の校長として在職２年目になります。

鎌倉高校での思い出は、所属していたサッカー部の活動が一番だったでしょうか。一つ上の先輩方は強くて、インターハイも冬の選手権も神奈川県代表として全国大会に進出しました。日々の練習は体力的に厳しく、トレーニングの最後には「ダッシュ」が組まれていました。終わるとへとへとで、多くの部員は「もう明日には辞めてやる。明日までに辞表を書いて監督に出す。」と豪語するのですが、気が付くと次の日もダッシュをしていました。みんな辞める度胸はなく、結局引退するまで毎日同じことを言っていたことが懐かしく思い出されます。私は自分の代では副キャプテンでしたが根性がなく、チームの力になれなかったことを今でも悔やんでいます。私の代から全国大会へは出場できていないので、責任を感じています。

楽しかったことは遠征の合宿です。静岡県のサッカーフェスティバルなどに出場し、全国の強豪と対戦していました。遠征は試合が中心だったので厳しいトレーニングもなく、チームメイトとご飯を食べ、風呂に入り、夜遅くまで語ったことが良い思い出になっています。

さて、私が教職を目指す大きなきっかけは、大学生時代のボランティア活動でした。自分がかつて所属していた少年サッカー団のコーチをしていたことです。高校までの競技経験を活かし、子どもたちが楽しくサッカーに取り組めるようにメニューを考え、練習に臨みました。土曜日は主に練習で、日曜日に試合がありました。土曜日に教えたことを試合でできると子どもたちは喜び、コーチに報告してくれます。子どもたちは強くなりたいと願い、週に一度の自主練をやってくれと私に依頼し、それも実現しました。チームはみるみる強くなり、市内リーグで優勝するまでに成長しました。子どもたちにサッカーを「教える」ことの楽しさを実感することができ、「教える」ことを仕事にしたいと考えました。

話は変わりますが、今年は本校にテレビの取材が複数入り、ＮＨＫのＮＥＷＳおはよう日本、クローズアップ現代、日本テレビのＺＩＰ！で放送されました。放送の内容は「教員不足」「教員の働き方改革」についてです。ご存知の通り、現在教員不足が全国的に叫ばれ、鎌倉市内でも定数に達しない（本来配置されるべき先生が配置されていない）学校が複数あります。最近では、教員はブラックな仕事だというイメージも膨らみ、教員採用試験の志願者も年々減ってしまっています。教員の年齢構成はいびつで、若者たちが増えています。このことは教育現場が活気に満ちて、非常に良いことです。しかし、若い教員が結婚し子どもが生まれると産休・育休に入るのですが、その先生の代替が見つからない現状があります。教員の欠員が生じると、周りの教員が自習監督などサポートに入ります。特別に申請をして、免許外の教科を教える場合もあります。これ以外にも児童・生徒、保護者対応や授業の準備、評価、部活動などが多忙感につながり、体調等を崩す教員も出ています。これまでは正規の教員をやっていない人が臨時的任用職員や非常勤という職でバックアップしてくれていたのですが、最近ではそのような人がなかなか見つかりません。テレビでは現場の状況を赤裸々に語らせていただきました。「学校は職員が見つからないからと言って、臨時休業にすることはできません。」というインタビューが流されました。

私は鎌倉高校に３年間在籍し、教育目標の通り「実践性・自主性・協調性」を学びました。教職に就いて 30 年が過ぎましたが、鎌倉高校で学んだことが現在の仕事にも活かされているなと実感しています。湘南地区の小・中学校では、鎌倉高校出身の教員がたくさんいます。本校でも私を含めて４名が同窓生です。

教職は子どもたちへの教育を通して、子どもたちの、そして日本の未来に携わることができる素敵な仕事です。まさに鎌倉高校の校歌にある、「われら鎌倉高校、日本の未来」ですね。皆さんも教職に興味のある方は、ぜひ挑戦してみてください。

深沢中学校　校長　河合克也先生は、昭和 62 年３月の卒業で第 38 回生になります。鎌倉市内には深沢中学校をはじめ市立が９校、国立大学附属が１校、計 10 校の公立中学校があります。本校に入学してくる生徒の中、鎌倉市内の中学校の出身者は約 13%です。生徒の出身中学で地域的に一番多く占めているのは、藤沢市で約 40%です。これについで横浜市が約 17%で、鎌倉市の出身者数は３番目になります。

河合先生は本校の卒業生ですが、鎌倉市、藤沢市、県立学校で教鞭を執っている卒業生は数多くいます。（無論、本校にも卒業生の教員がいます。）　現在、教員の仕事は土日出勤、残業が多く、ブラック仕事の代表的な仕事のイメージが強く、教員の世界では働き方改革が叫ばれています。しかしながら私自身は、働き甲斐のある仕事だと思い、今日にまで至っています。働き方改革のみならず、働き甲斐改革も意識しないと思っています。

教員という仕事の働き甲斐改革には、やはり仕事に対する幸福度が必要だと思います。校長は、(生徒)人格の陶冶に携わる、この仕事に働き甲斐があると思っています。